

宇都宮市立富士見小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「英語の学習は好きですか」について、肯定割合が81.4%と、国の平均を15.1ポイント上回っている。また、「英語の授業の内容はよく分かりますか」について、肯定割合が87.3%と、国の平均を9.0ポイント上回るなど、英語学習の意欲の高さがうかがえる。引き続き、ALTを活用しながら授業を行ったり、友達や教師とのやりとりを重要視した授業の構築に努めたりして、興味関心を高めていけるよう指導していきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、肯定割合が96.6%と、国の平均とほぼ同じである。一人一人が、いじめがよくないことだと自覚していることがうかがえる。道徳の授業において、いじめ問題について考えたり、まごころカードやいじめゼロ強調月間の取組、学校生活アンケート等を活用したりすることで、いじめに対する認識を深め、友達と互いに協力し合える行動実践への意欲を高めさせたい。

○「5年生までに受けた授業で、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」について、肯定的割合が80.5%と国の平均を0.9ポイント上回った。また、「5年生までの学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分の考えや意見を分かりやすく伝える」について、肯定割合が81.3%と国の平均を2.1ポイント上回った。学習において、プレゼンテーションソフトで資料をまとめたり、発表のために自分の考えを整理したりする経験から、少しずつ児童が自信をもって活動に臨む様子が見られた。一人一台端末を日常的に使うことで、より短時間で多くの情報を得たり、友達との意見を共有したりすることのできるよさを生かしながら、自分の意見をさらに広げられるように指導したい。

●「人が困っているときは、進んで助けていますか」について、肯定的割合が90.7%と国の平均を2.0ポイント下回った。道徳の時間や学校生活全体を通して、周囲への思いやりの心が育つような指導に努めていきたい。

●「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」について、肯定割合が94.9%と国の平均を1.0ポイント下回った。全体としては高いものの、当てはまらないと回答した割合も高かった。学級の当番や係の仕事、なかよし班での活動を通して、児童が活躍する場面を作ることで自己有用感を高めたり、友達と助け合うことのできるよさを味わわせたりできるように支援していきたい。

●「国語の勉強は好きですか」及び「算数の勉強は好きですか」について、肯定割合がそれぞれ60.1%、66.9%であった。国の平均と比較し、国語は1.9ポイント下回り、算数は5.9ポイント上回った。一方で、それぞれの教科について、「勉強は大切だと思いますか」の肯定割合が国の平均よりも高いことから、学習することは大切だと感じつつも、国語においては興味が低いことがうかがえる。児童の興味・関心をもてる学習課題の設定をし、学習者主体の授業づくりを目指していく。

宇都宮市立富士見小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本の確実な定着	・朝の学習時における漢字や計算練習の実施、ステップアップシートの活用 ・AI型学習ドリルを活用した、個に応じた基礎的・基本的知識・技能の定着 ・「家庭学習のすすめ」による家庭学習内容の提示と家庭学習強化週間の実施	・国語の知識・技能については、国の正答率を3.4ポイント、思考・判断・表現については、4.9ポイント上回っている。 ・算数の知識・技能については、国の正答率を0.3ポイント下回っているが、思考・判断・表現については、3.5ポイント上回っている。
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・自分の考えや表現を深める対話的活動の設定 ・「何を学んだのか」を実感させることのできる振り返りの工夫	・「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の項目において、国の肯定回答を1.9ポイント上回っている。 ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の項目において、国の肯定回答を1.4ポイント上回っている。
・個に応じた指導の推進による学習意欲の向上	・興味・関心をもって取り組める学習課題の設定・教材の開発 ・児童のよさや努力したことに対する積極的な承認や称賛	・「5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の項目において、国の肯定回答を4.7ポイント上回っている。 ・「先生は、あなたのように認めてくれていると思いますか」の項目において、国の肯定回答を6.7ポイント上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査では、自分の考えを述べたり理由を説明したりするなど、記述式の設問における正答率がやや低い。特に算数では、正答率が30%の設問もあった。また、質問紙では、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という設問の肯定回答が68.7%と、考えを整理し伝えることへの苦手意識がやや見られる。	自分の思いや考えを表出させるための支援	授業においては、解決への見通しをもたせ、思考する時間を十分に確保することで、自分の思いや考えを整理し、表出できるようにする。また、文型を提示したり友達と一緒に考えさせたりすることで、思いや考えを整理しやすくする。さらに、思考の深まりや広がりなど話し合うことのできるよさを実感させるとともに、計画的に話し合い活動を設定するなど経験を積み重ねていく。